読解力と音読力育成を目的とした授業実践

～「デジタル教科書」の導入で英語を苦手科目から得意科目へ ～

原　めぐみ

１．勤務校について

大阪府に所在する勤務校は，生徒の約 5 割が進学する工業高校である．約半数の生徒にとって，高校での英語の授業が「英語が使えるようになる」最後の機会だ．私は今年度から本校で勤務し，1 年生 120 人(うち男子 113 名　女子 7 名)の「英語Ⅰ」を 3 クラス担当している．これらのクラスで，『BIG DIPPER English Course I』のデジタル教科書を使い，読解力育成や音読練習を中心とした週 3 回の授業を行っている．

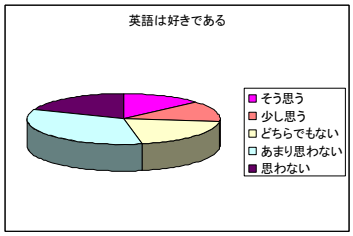
4 月初日の授業で，担当する 1 年生全員（120 人)に英語学習に関するアンケート調査を行った．そのアンケートの結果,「英語が好きである」という問いに「そう思う」「少し思う」と答えたのは全体の 26.6%であり,「あまり思わない」「思わない」と答えたのは 53.1%であった．中学校 3 年間の英語が終わった時点で，英語の好意性が低いことは明らかである．しかし,「英語が必要である」という問いに「そう思う」「少し思う」と答えた生徒は 70%にも上る．

担当生徒を対象に行ったアンケート結果：

(n:120)

英語が好きである.

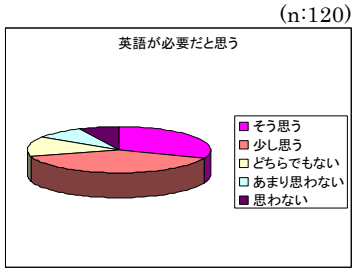
そう思う	13.3%
少し思う	13.3%
どちらでもない	20.4%
あまり思わない	34.5%
思わない	18.6%



(n:120)

英語が必要だと思う.

そう思う	31.0%
少し思う	38.9%
どちらでもない	14.2%
あまり思わない	8.8%
思わない	7.1%



中学校 3 年生を対象としたある全国的な調査によると,「英語が好き」「英語が少し好き」という生徒は 28.5%にとどまり,「英語が嫌い」と答えた生徒は 71.5%もいるが,「英語が必要である」と感じている生徒は約 90%にもなる．これらの結果から，英語教師の使命は生徒の英語に対する好意性と必要性のギャップを埋めることであることは明らかである．

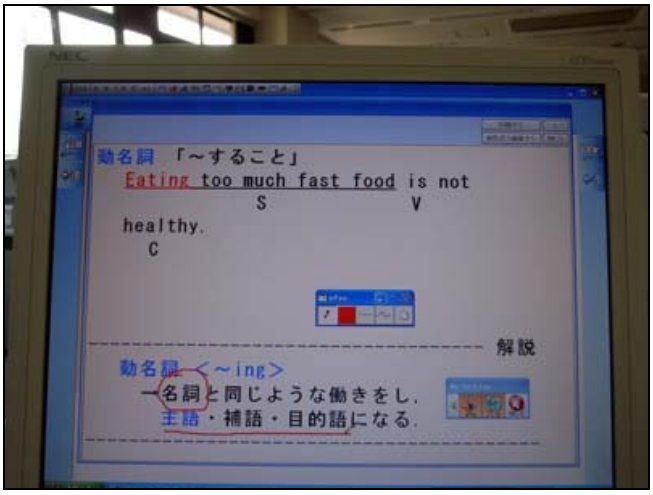
同アンケートの「高校の英語の授業に期待することは何ですか」という記述式の問いに生徒は,「中学の時はわからなくて，授業が楽しくなかったのでわかりやすく楽しく集中できる授業がいい.」「中学校の時はわからなかったが，高校では英語を得意科目にしたい.」と記述していた．中学校で英語は苦手だったが，高校では得意科目にしたいと思っている生徒が多いことから，高校に入学したばかりの時期が，英語をやり直す絶好の機会であることが分かる．英語学習に対する積極性や動機づけが高いこの時期だからこそ，デジタル教科書を導入していくことに意味がある．

２．デジタル教科書を使う意義

生徒の授業での様子を見ていると，日本語のカタカナ発音が定着してしまっており，メッセージを伝えるためのイントネーションやリズムを意識して読む能力が不足していることに気づいた．世界で許容されるような発音を目指すためには，syllable-timed（音節拍リズム)の発音ではなく，stress-timed（強節拍リズム)の発音ができるような音読練習をする必要がある．デジタル教科書は，本文の内容理解を助け，文字情報と音声を同時に見せ聞かせることができるため，読解力と音読力育成を目的とした授業実践をサポートしてくれるツールになると考えた．

さらに今年度担当する 1 年生 3 クラス全ての授

▲ LL 教室での授業（パソコンとヘッドセット完備）



▲ 板書表示機能（書き込みは LL の電子ペン機能）

業時間で，1 人 1 台のパソコンとマイク付きのヘッドフォンが備わった LL 教室の使用が可能である環境が整ったことや，前年度の勤務校でもパソコンを使用した授業を年間通して行い，それが生徒に好評であったことを踏まえて，デジタル教科書を「英語Ⅰ」で毎時間使用することに決めた．

３．デジタル教科書でできること

① 音読練習

初めて音読を行った際は，工業高校の男子生徒が声を出して音読するのか不安だったが，ヘッドフォンをつけた途端に生徒たちの大きな声が聞こえてきた．他人の声が聞こえず，自分の声も人に聞こえないので，恥ずかしさが軽減され，声を出せるのかもしれない．デジタル教科書では本文を画面いっぱいに拡大することができ，流れてくる音声に合わせてアンダーラインが表示されるので，視覚的補助の役割をする．クリックするだけで，新出単語だけを再生したり，パラグラフごとに再生できたりするのでとても使い易い．

② リスニング演習

デジタル教科書では，答えとスクリプトが瞬時に出せるので，聞き取れなかった生徒も「(スクリプトを)見たら答えがわかった」と言い，リスニングだけでは答えがわからなかった生徒も，もう一度聞こうという姿勢になり，達成感が得られる．

③ 板書表示機能

板書表示機能には，構文・文法の解説があり，教師が黒板に書く時間が省けるため，生徒からの質問に個別に答えたり，生徒が書いた自己表現文を指導したりする時間が増える．

黒板は書くスペースが大きく，教員が消すまでに時間があるため，生徒はゆっくりと書き写すことができるが，板書表示機能は，ポップアップ式になっているので，すぐに消えてしまう．生徒は短時間に集中して画面を見て，必要な部分だけを考えてノートをとる技術が身につく．板書表示機能を使用すると，瞬時に次々と重要事項を表示できるので，1 Lesson 終了時や定期試験前に復習する際に効率的に利用できる．

本校の LL 教室では 40 人一斉授業でも，1 人ずつの目の前にパソコンの画面があるため，ノートをとることもスムーズにできる．

④ 実用プリント作成機能

各パートに予習プリント，復習プリント，フレーズリーディングプリント，単語ドリル，単語小テスト，熟語・文法小テストなどがあらかじめ備わっている．それらを印刷するだけで，使用する事も可能であるが，検索機能を使い，問題を追加したり，難易度を選択したりすることができる．Microsoft Word などでも編集が可能であるため，授業の進度や生徒の能力に合わせたプリントを簡単に作成でき，保存が可能である．

デジタル教科書に備わったこれらの機能をすべて使いこなすのは難しいと思われる方もいるかもしれないが，私は今まで取扱説明書を一度も見ていない．各アイコンをクリックするだけで，必要な教材が表示されるため，難しく感じることなく使用できているからだ．

４．デジタル教科書を用いた授業展開例

前時限の授業が終わり次第，LL 教室に来る生徒のために，その時間に扱う本文の音声を流しておく.そうすると,席に着いた生徒からヘッドフォンをつけ，休み時間から生徒は音声を聞く.

① Warm Up

- リスニング問題
- 単語小テスト
- 前時限に学習した本文のシャドーイング

② 新出単語導入

単語の意味と品詞を調べてくることが宿題.

- モニターの単語と発音記号を見ながらリピート
- 意味と品詞の確認

③ 内容理解

- Guiding Question を与えた後に，黙読
- 答えを生徒から引き出し，その答えの元になった本文箇所を電子ペンで示す

④ 文法・ストラクチャー導入

- 板書表示機能を使い，文法事項を提示し，LL の電子ペン機能で重要な部分に印をつける

⑤ 音読練習

- 音と文字の結びつきを確認するため，目で文字を追いながら聴く
- パラグラフごとにリピート
- ヘッドフォンをはずし buzz reading（読めなかった箇所に各自が印をつける）
- もう一度モデル音声を聞きながらリピート
- ペアで read and look up や parallel reading などの活動を行う

⑥ まとめ

- 本日導入した文法・語彙を板書表示機能でもう一度示し，生徒を指名しながら確認

⑦ 宿題

実用プリント作成機能にある，「日本語訳付きスラッシュリーディング」を使って本文を音読してくる．次ページの新出単語の意味と品詞を調べてノートに書いてくる.

⑧ 音読テスト（1 学期に数回）

デジタル教科書を使用すると，授業の進度が早くなるため，音読テストの時間を取ることができる．1 人 1 分で行うことによって，40 人のクラスでも 1 時間で全員のテストを終わらせることができる．音読テストの間，順番を待っている生徒は本文の音声を聞いたり，プリント作成機能を使い作成した解答付きの復習プリントをしたりして個々に復習をすることができる.

５．生徒の反応

デジタル教科書を使用し 2 か月が経過したところで，デジタル教科書を使った感想を生徒に書いてもらった．以下に生徒の主な意見を掲載する.

- パソコンで先生が線を入れながら説明できるのがいいと思う．今やっているところがわかりやすい.
- こまめに説明があって(板書表示機能)，本文の内容をつかみやすい.
- 単語に音声があるのがいいが，意味や品詞もあったらいい.
- スピーディに進んでわかりやすい.
- パソコンの画面なのであきない.
- 教科書を忘れた時でも人にみせてもらわなくてもいい.

最後の意見のように，こちらが予想していなかったようなものもあるが，生徒はデジタル教科書を概ね好意的に受けとめていることがわかる.

６．最後に

教師が生徒の学習モデルであるべきだということは大前提としてあるが，デジタル教科書は生徒の英文読解能力や音読力育成の補助的役割を果たすツールであり，これを使用することによって英語が得意科目になる生徒が増えることを期待する.

下記のいずれかにあてはまる先生方に
デジタル教科書の使用をお勧めする.

- ☐ 授業の準備に時間がかかる.
- ☐ 板書に時間がかかる.
- ☐ 生徒の発話量を増やしたい.
- ☐ 音読練習の際に生徒に大きな声を出して欲しい.
- ☐ パソコンの操作が得意であるとは言えない.
- ☐ 重い CD プレーヤーを毎時間教室に運んでいる.
- ☐ プリント作成に時間をかけている.

（公立高校非常勤講師）